

勅授

丙
三九七
三九七

立案 昭和七年五月廿日
決裁 昭和 年 月 日

爵位課長



宗秩寮總裁
宮内事務官



陸軍大將男西村白川義則特旨
叙位ノ件

昭和七年五月廿日
臺帳記入
官報報告済

宮内省

三十二
号

175

濟

裏面白紙



陸軍大将男爵白川義則特旨

叙位ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和七年五月二十六日

内閣總理大臣高橋是清




内


閣

めくれず

陸後第二一號

案起 昭和七年五月 日 裁可昭和七年五月三十日 施行 昭和 年 月 日

内閣總理大臣 

内閣書記官長 

内閣書記官 

陸軍大將正三位勲二等功三級男爵白川義則ハ別紙陸軍大臣奏請ノ通功績顯著ナル者ニ候處目下病氣危篤ノ趣ニ付左ノ通特旨叙位ノ件上奏相成然ルヘシ

内閣

陸軍大將正三位勲二等功三級男爵白川義則 特旨ヲ以テ位一級被進

正三位勲三等功三級男爵白川義則

叙従二位

病氣危篤

陸軍大將正三位勲二等功三級男爵白川義則
右者別紙功績書ノ通我邦家ニ效セシ功績寔
ニ偉大ナル者ニ有之候處目下病患危篤ニ陥リ到
底回復ノ見込無之ニ付此際特別ノ思召ヲ以テ
位一級ヲ進メ從二位ニ叙セラレ度
謹テ奏ス

昭和七年五月廿六日

陸軍大臣 荒木貞夫



陸軍

功績書

陸軍大將正三位勳一等功三級男白川義則

右者明治三十四年三月陸軍歩兵少尉ニ被任爾來陸軍樞要ノ職ニ歷任累進シテ現官ニ及ヒ其ノ在職實ニ四十年有餘タリ其ノ間日清日露青島西伯利等ノ戰役並ニ事變ニ從事シ毎回殊功ヲ樹ツ尚又師團長軍司令官軍事參議官特命檢閲使陸軍大臣トシテ恪勤精勵其ノ職責ヲ完フシ國家ニ對スル功績最モ顯著ナリ
次テ今次ノ事變ニ當リ上海巡遣軍司令官ノ重任ヲ拜命シテ出征スルヤ克ク該地ニ於ケル用兵作戰ノ指揮統帥ニ任シテ武功ヲ奏シ幾多ノ難局ヲ排シテ帝國ノ權益及帝國ト列國ノ共同利益ヲ保護シ以テ皇軍ノ威信ヲ海外ニ發揚シ所

陸軍

期ノ目的ヲ達成シタル勳功寔ニ偉大ナリト認ム

履歷書

陸軍大將正三位勲一等功三級男爵白川義則

明治元年十一月十三日生

族籍 愛媛縣士族

現所屬 上海派遣軍司令部

明治三十四年三月二十六日 任陸軍歩兵少尉同日歩兵第三聯隊附

同日 三十五年二月三日 敘正八位

同日 三十六年十一月三日 陸軍大學校(入校)

同日 三十七年七月三日 陸軍大學校ヨリ歸隊

同日 年八月二十日 任陸軍歩兵中尉

同日 年十月十日 敘從七位

同日 年十一月十七日 外征ノ爲メ宇品港出帆

同日 三十八年二月二十四日 同日ヨリ清國三家子、煙峰峯、八盤峯、牛莊、

陸軍

同日 年七月二十二日 田庄台等ノ各地ノ戦闘ニ参加ス

同日 年十一月二十八日 宇品港歸着

同日 明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ敘勲六等授單

同日 光旭日章

同日 三十九年三月一日 陸軍大學校(復校)

同日 三十九年二月八日 任陸軍歩兵大尉

同日 年四月十六日 敘正七位

同日 年十一月九日 陸軍大學校卒業

同日 三十九年十一月六日 補陸軍士官學校教官

同日 三十四年三月二日 兼補皇族附武官同日守正王附屬被仰付

同日 年八月十九日 御用有之清國(被差遣)

同日 三十五年二月二十六日 補近衛師團參謀

同日 年十一月三十日 敘勲五等授瑞寶章

同三十五年六月二十五日 任陸軍歩兵少佐同日補歩兵第三十聯隊長

同 年七月十日 叙従六位

同 年五月一日 補歩兵第三十聯隊長

同三十七年四月十九日 動員下令

同 年五月十五日 外征ノ爲メ宇品港出發同月二十日清國張家屯

上陸爾後金州南山、南瓦房店、得利寺、東荒

地、蓋平、大石橋、折木城、鞍山、上汪家峪、潘

家、遼陽、沙河、黑溝台、奉天附近、各地

戦闘ニ参加ス

同三十八年三月三十日 第十三師團兵站參謀トシテ留守第八師團

ニ配屬セラル

同 年七月二日 青森乘船兵站施設トシテ南部樺太ニ出張

同 年九月八日 青森歸着

陸 軍

同三十八年十月二日 陸軍省人事局課員被仰付

同 年十月十六日 平和詔勅發布

同三十九年三月三十日 補陸軍省人事局課員

同 年四月一日 明治三十七年戦役ノ功ニ依リ叙功三級金鷄勲章

並勲四等旭日小綬章

同四十年三月二日 任陸軍歩兵中佐

同 年五月二十日 叙正六位

同四十二年五月三十日 任陸軍歩兵佐同日補歩兵第三十四聯隊長

同四十四年二月二十日 叙従五位

同四十四年六月十九日 補第十師團參謀長

大正二年九月三十日 中支那派遣隊司令官被仰付

同 三年五月十六日 叙勲三等授瑞寶章

同 年八月二十三日 同日ヨリ同年十一月七日迄中支那派遣隊ニ在リテ

大正四年戰役勤務ニ從事ス

同四年三月廿日 叙正五位

同 年八月十日 任陸軍少將同日補歩兵第九旅團長

同五年八月十八日 補陸軍省人事局長

同 年八月十八日 陸軍治罪法、海軍治罪法改正案共同審査委員被仰付

同七年八月二日 同日ヨリ大正八年一月十四日迄陸軍省人事局長ニ在リテ西伯利亞戰役勤務ニ從事ス

同 年五月十四日 支那及西伯利亞出張被仰付

同八年一月十五日 任陸軍中將同日補陸軍士官學校校長

同 年三月廿八日 叙從四位

同九年一月廿四日 叙勲二等授瑞寶章

同 年九月九日 厄港事件審査委員長被仰付

大正九年十一月一日 陸 軍 奎星乃至九年戰役ノ功ニ依リ授旭日重光章

同十年三月十日 補第十一師團長

同 年三月廿三日 西伯利亞派遣ノ為メ敦賀港出發

同 年三月廿日 叙正四位

同 年五月廿日 陸軍治罪法、海軍治罪法改正ニ關シ奮力勤ナカラスニ付銀杯壹個ヲ賜フ

同十年八月十五日 補第十一師團長

同 年十月廿日 任陸軍次官

同 年十一月一日 叙勲一等授旭日大綬章

同 年十一月廿日 補航空局長官

同十一年二月六日 故元帥陸軍大將貞愛親王葬儀委員被仰付

同 年三月廿日 補陸軍航空本部長兼航空局長官

同 年六月七日 學習院評議會委員被仰付

一 大正十二年九月十一日 陸軍震災救護委員受被仰付

一 同 年九月三日 陸軍震災善後委員長被仰付

一 同 年十一月十日 依願免本官(次官)

一 同 年十一月十日 補關東軍司令官

一 同 十三年五月十五日 叙從三位

一 同 十四年三月十八日 任陸軍大將

一 同 十五年七月十八日 補軍事參議官

一 昭和二年二月四日 大正天皇靈柩供奉被仰付

一 同 年四月四日 第二次命換閱使被仰付

一 同 年四月三十日 任陸軍大臣

一 同 年五月十一日 叙正三位

一 同 年七月十九日 資涼齋議會副總裁被仰付

一 同 三年十月三日 大禮行幸供奉被仰付

陸軍

一 昭和四年七月十二日 依願免本官(大臣)同日補軍事參議官

一 同 五年三月三日 第二次命換閱使被仰付

一 同 年八月十九日 補議定官

一 同 五年四月十四日 第二次命換閱使被仰付

一 同 年十一月八日 滿洲へ出張被仰付

一 同 七年二月二十五日 補上海水遣軍司令官

一 同 年二月二十七日 小松島港出張

一 同 年三月十一日 吳松港上陸

一 同 年五月廿三日 依勲功特授男爵

裏面白紙

(位第号外)

叙位ノ件進達

昭和七年五月廿六日

陸軍大臣 荒木貞夫

内閣總理大臣 高橋是清殿



陸軍大將男爵 白川義則 特旨叙位ノ件

右進達ス

陸軍

184

裏面白紙

丙
三九七五支

陸軍大將 齋藤實 奉加 此里 齋白川義則

右本日特旨ヲ以テ敍位相成候ニ付位記竝辭令及
回送候條傳達方御取計有之度候也

昭和 七年 五月 廿日

宗義 齋藤實 齋白川義則 敬

陸軍大臣

宮内省

(捺印)

185